熊本地震で被災の崇城大
校舎「ＳｏＬＡ」が完成

崇城大の新校舎「D号館（ＳｏＬＡ）」

熊本市西区の崇城大で19日、平成28年4月の熊本地震で被災し、建て替え工事が進んでいた校舎「D号館（ＳｏＬＡ）」の竣工式があった。

新校舎の名称は、学生から募集し、崇城大の「Ｓｏ」に、「Ｌｕｍｉｎｏｕｓ Ａｕｄｉｔｏｒｉｕｍ（明るく光る講堂）」の頭文字を加え、「ＳｏＬＡ」とした。

「ガラスに映る『空』のように、明るく広い建造物」を設計コンセプトに、鉄筋3階建てで、大きな半円形となっている。

開放感抜群の窓からは、学内の憩いの広場が見渡せる。1階はカフェ・軽食などを備えた学生交流スペースで、2階には大きなアクティブ・ラーニング教室と多目的室を設けた。3階は座席832席ある階段式の大講義室と、ステージを配置した。

式典で中山峰男学長は「やっと竣工を迎えられ、胸がいっぱい。学生が楽しく生き生きと笑顔で過ごす環境、建物を実現できた」と述べた。崇城大は25日、名称採用者の表彰式など学内向けのオープニングセレモニーをする。

2018年9月20日　産経新聞　P.23